

ふるさと「阿南市」のすばらしい魅力を再発見!



おっぱしょ地蔵まつり(柳島町)



おっぱしょ地蔵



中野島保育所園児が歌を披露

子どもたちに地元の民話を知ってほしいと柳島町で「おっぱしょ地蔵まつり」が行われている。しばらく途絶えていたが同保存会の皆さんが復活させた。毎年、お盆の頃に開催されていて今年で8回目を迎えた。

おっぱしょ地蔵は柳島町南別当にたずんでいる小さなお地蔵さん。昔から町の人々を見守ってきた。「いぼとり地蔵」としても知られ、その効能を求めて市外からお参りに来る人もいます。昔からお地蔵さんにまつわる民話が語られている。タヌキが「おっぱしょ(背負ってくれ)」と言って村人を化かし、懲らしめられたものの、かわいそうに思った村人たちが地蔵として参るようになったという民話で、長年、町で親しまれてきた。

まつりでは、お地蔵さんの民話に基づいた自作の紙芝居が披露される。中野島小学校児童が交代で読む。集った人々は、紙芝居に見入っている。



民話の紙芝居



会場にはたくさんの来場者

「たくさんの方が見に来てくれてうれしい」「身近なお地蔵さんのことをくわしく知ることができて良かった」などと紙芝居を読んだ児童は晴れやかな表情を浮かべた。

また、中野島保育所児の歌やおどり、中野島児童クラブの子どもたちによる「こどもの主張」や校歌斉唱が行われ、お地蔵さんの前で、子どもから大人まで交流の輪が広がっている。

「子どもたちに、民話を通して地元愛を醸成してほしい」と語るのは同保存会代表の伊勢晃人さん。まつりを復活させた亡父敏雄さんの意志を引き継いだ。「民話は、ふるさとの物語。民話を守り、語り継いでいくことは、私たち大人の役目。今年も開催することができて良かった」と顔をほころばせた。

1体の小さなお地蔵さんが繋ぐ地域の絆。ふるさとの民話は、人々の心に宿り、心のより所となって継承されていく。